

Hem21 NEWS

公益財団法人
ひょうご震災記念21世紀研究機構
ニュース

「Hem21」は、ひょうご震災記念21世紀研究機構の英語表記である
Hyogo Earthquake Memorial 21st Century Research Instituteの略称です。

VOL. **52** 平成27年
(2015) 7月

CONTENTS

- 1 平成27年度研究体制とミッション
- 2~3 平成26年度「講演会・研究成果報告会」を開催、阪神・淡路大震災20年・21世紀文明シンポジウムを開催
- 4~5 情報ひろば
- 6~8 人と防災未来センター MiRAi

管理部

研究調査本部

人と防災未来センター

こころのケアセンター

学術交流センター

平成27年度研究体制とミッション

当機構の平成27年度研究体制をご紹介します。研究調査本部では、防災・減災の社会づくりに資するとともに、21世紀文明のあり方について研究し、国内外の政策形成に情報発信すべく、研究調査の推進を図っていきます。

「人口減少下の多自然地域の魅力づくりの研究～シニア世代を活用した新たなビジネス展開～」

杉山 武志 主任研究員

人口減少や高齢化、基幹産業である農林水産業の衰退が進む一方で、豊かな資源をもつ多自然地域を対象に、シニアとシニアに関わる若者や支援者の関係を視野に収めた新たなビジネスモデルを研究し、自律的な地域社会と経済の維持を目指すビジネス構築に向けた政策提言を行う。



研究テーマと担当研究員

「災害時の広域連携支援の役割の考察」

秦 正樹 主任研究員

広域行政主体の災害支援活動の有効性と課題を考えるために、関西広域連合の東日本大震災での対応を検証するとともに、複数の復旧・復興支援の方式の比較検討や他国の防災行政組織の比較研究を通して、日本の防災行政組織のあり方について政策提言を行う。



「人口減少、少子・高齢化社会におけるライフスタイルと社会保障のあり方について～地域におけるクオリティ・オブ・ライフの実現に向けて～」

米川 安寿 研究員

人口減少と高齢化が急速に進行する中、地域において高齢者が満足のある社会生活を送ることができるよう、ライフスタイルの視点からクオリティ・オブ・ライフの実現方策について、社会保障のあり方を中心に、諸外国との比較検討および兵庫県の地域特性を踏まえた政策提言を行う。



「大震災復興過程の比較研究～関東、阪神淡路、東日本の三大震災を中心に～」

金 恩貞 主任研究員

次なる大震災に対していかに備えるべきかという問題意識に立ち、関東大震災、阪神・淡路大震災、東日本大震災の3つの震災について、①震災をめぐる社会的認識②政府の危機管理③復旧復興の政治過程、という視点から比較研究を行い、震災からの復旧・復興体制など政治・社会体制のあり方について政策提言を行う。



「若者にとって魅力ある多自然地域拠点都市の形成方策に関する研究」

初田 直哉 研究員

兵庫県土全域において地域創生を実現していくため、大都市圏と多自然地域の中間に位置し、一定の都市機能の集積を有する都市を「多自然地域拠点都市」(例、西脇市、豊岡市など)と位置付け、それらの都市の魅力の顕在化と活性化を図るための方策を探り、若い世代が集まってくる地方都市づくりについて政策提言を行う。



平成26年度

「講演会・研究成果報告会～災害復興と地方創生～」を開催

当機構は、兵庫県のシンクタンクとして、阪神・淡路大震災の経験と教訓を踏まえて再認識された「安全・安心なまちづくり」と「共生社会の実現」を進めるための調査研究を進め、政策提言を行っています。

小田切徳美氏(明治大学農学部教授)による地方創生のあり方についての講演会および、平成26年度の研究成果(3テーマ)について研究責任者等による報告会を開催しました。

個人、企業、地域団体、NPOなど多数の方々の参加を得て、盛況のうちに終わることができました。

【報告会内容】

▶日 時=平成27年5月20日(水)13:30～16:15

▶場 所=兵庫県私学会館 4階大ホール

▶参加者=約270人

1. 基調講演

小田切徳美(明治大学農学部教授)

「人口減少下における地方創生を考えるー地方消滅論に農山村はどう向きあうかー」

2. 平成26年度研究成果報告

(1) 室崎益輝((公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構副理事長兼研究調査本部長)

「リスボン地震とその文明的意義の考察」

(2) 荒木裕子(人と防災未来センター研究員、前(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構研究調査本部研究員)

「自然災害後の土地利用規制における現状と課題ー安全と地域持続性からの考察ー」

(3) 室崎益輝((公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構副理事長兼研究調査本部長)

「災害時の生活復興に関する研究ー生活復興のための12講ー」



阪神・淡路大震災20年 21世紀文明シンポジウム 「減災～あすへの備え 次なる大災害と危機管理」を開催

当機構と朝日新聞社は2月10日(火)、神戸朝日ホールで21世紀文明シンポジウムを開催しました。阪神・淡路大震災や東日本大震災の経験と教訓等を踏まえ、米連邦緊急事態管理庁(FEMA)の事例なども参考にしながら、減災社会の実現に向けて「減災～あすへの備え 次なる大災害と危機管理」をテーマに掲げ、約500人に参加いただきました。

基調講演では、船橋洋一氏((一財)日本再建イニシアティブ理事長、元朝日新聞社主筆)から「原発敗戦から学ぶーリスク・ガバナンス・リーダーシップー」と題して講演いただきました。船橋氏は、福島第一原子力発電所事故当時と同発電所の所長であった吉田昌郎氏が「東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証委員会」の聴取に応じた際の記録に「危機の本質そのものについて考えるさまざまなヒントがある」と指摘され、その記録の内容に触れながら「予防、準備そして対応の3つがそろった備えが重要である」と述べました。

基調報告では、ジェームズ・キッシュ氏(米連邦緊急事態管理庁(FEMA)緊急事態対応局副長官補佐)から「ハリケーン・サンディにおける米連邦緊急事態管理庁(FEMA)の危機管理対応について」と題して、「カリーナの後、人材の採用、育成、配置に投資を行ったことで、サンディでの被害軽減につながった」ことや、その後の振り返り作業から、「生存者に注力して作業を行う、コミュニティ全体で協力する、そして迅速でプロフェッショナルな緊急管理の人員を養成する」といった教訓を学び、

さらなる改善を目指したい」と報告されました。

後半のパネルディスカッションでは、まず、3人のパネリストからそれぞれ事例報告をしていただきました。

野田健氏(元内閣危機管理監)は、「阪神・淡路大震災発生時の対応状況に問題があり、その問題点を解決するため、内閣における緊急事態対応体制が整備されてきている」と報告されました。

待鳥聡史氏(京都大学大学院法学研究科教授)は、「大規模災害発生直後は集権的な意思決定が必要であるが、その後の復旧・復興段階あるいは平時は、意思決定主体相互間での協働のためにコーディネートする組織が必要である」と報告されました。

河田恵昭氏(当機構副理事長・人と防災未来センター長)は、「長期



写真提供：朝日新聞社

的な災害発生傾向として、地球温暖化による風水害の激化傾向、高潮の脅威の増加、地震・火山噴火活動の活発化の3つの要素を考慮しておく必要があり、減災社会の実現には、災害を想定外としない努力、大都市の被害拡大の抑止、過去に造られた公共施設の維持と強化、地域社会の活性化が必要である」と報告されました。

最後にコーディネーターの五百旗頭真氏(当機構理事長)が、「日本の防災体制は阪神・淡路大震災以後、大いに前進し、改革されたことは明白で、高く評価しなければならない。しかし、東日本大震災での原発事故の併発やこれから起こるであろう南海トラフ巨大地震、首都直下型地震に備え、国において全国的・全体的観点からの防災体制の強化を」と締めくくり、終了しました。

- ◆基調講演
船橋 洋一 (一財)日本再建イニシアティブ理事長、元朝日新聞社主筆
- ◆基調報告
ジェームズ・キッシュ 米連邦緊急事態管理庁(FEMA)緊急事態対応局副官補佐
- パネリスト
船橋 洋一 (一財)日本再建イニシアティブ理事長、元朝日新聞社主筆
野田 健 元内閣危機管理監
待鳥 聡史 京大大学院法学研究科教授(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構副理事長・人と防災未来センター長
河田 恵昭
- コーディネーター・総括
五百旗頭 真 (公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構理事長

HAT神戸 掲示板

兵庫県立美術館

県美プレミアム

小企画「美術の中のかたち―手で見る造形 手塚愛子展」

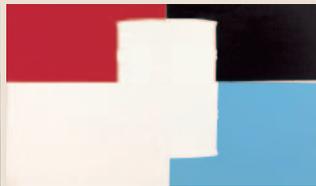
視覚に障がいのある方も鑑賞の機会を提供する毎年恒例の企画で、作品に触れることのできる展覧会です。今回は、糸を用いた手塚愛子(1956-)氏の作品を展示します。

特集「VS(ヴァーサス)―コレクション新旧対決!？」

前身の県立近代美術館が開館した1970年以来、当館では作品の充実に努め、その数は約9,000点に達しています。本特集ではこの1年で新たに収集された作品とこれまで収蔵してきた作品で、複数のテーマに沿って「対決」を試み紹介する予定です。



手塚愛子「薄い膜、地下の森」2007年
撮影:市川勝弘(参考図版)



奥田善巳「ネガへの挑発」1967年

- 会期=11月8日(日)まで
- 観覧料=一般510(410)円、大学生410(330)円、高校生260(210)円、65歳以上255(205)円、中学生以下無料
- ※障がいのある方とその介護の方1人は各当日料金の半額(65歳以上を除く)
- ※()内は20人以上の団体割引料金
- ※9月30日(水)まではクールスポット期間として、上記各観覧料の半額となります

舟越 桂 私の中のフィンクス展

舟越桂(1951年盛岡市生まれ)は遠くを跳めるような人物彫刻で高い評価を受けている現代彫刻家です。彫刻約30点、素描数十点からなる同展では、初期から現在までの制作活動を回顧しつつ、特に近年作家が力を入れている半身裸体像や異形の姿をまとめて紹介します。

- 会期=8月30日(日)まで
- ※7月20日は開館し、21日は休館します
- 観覧料=一般1,300(1,100)円、大学生900(700)円、高校生・65歳以上650(550)円、中学生以下無料
- ※障がいのある方とその介護の方1人は各当日料金の半額(65歳以上を除く)
- ※()内は20人以上の団体割引料金(65歳以上を除く)



舟越桂「消えない水滴」
1986年 兵庫県立美術館蔵
©Funakoshi Katsura

- ◎休館日=月曜(7月20日は開館し、21日は休館します)
- ◎開館時間=10時~18時(特別展開催中の金曜・土曜は20時まで)
- ※入場は閉館の30分前まで
- TEL 078-262-0901 <http://www.artm.pref.hyogo.jp/>

JICA関西

食べることから始める国際協力! JICA関西食堂の月替りエスニック料理

JICA関西1階の食堂(カフェテリア方式)は、どなたでもご利用できます。完全禁煙で、安心して料理を楽しめ、子供椅子もご用意していますので、お子様連れも歓迎です。大好評の月替りエスニック料理(8月はアフガニスタン料理、9月はコスタリカ料理)もご用意します!ぜひ、お気軽にお立ち寄りください。メニューの詳細と写真については、



写真は5月のネパール料理

こちら→ <http://www.jica.go.jp/kansai/office/restaurant/index.html>

- 営業時間=(昼)11時半から14時まで (夜)17時半から21時まで
- ※各終了30分前ラストオーダー
- ※年中無休(年末年始を除く)

◎申し込み・問い合わせ

JICA関西(独立行政法人国際協力機構関西国際センター)市民参加協力課
TEL 078-261-0341(代表) FAX 078-261-0342
Eメール jicaksic-event@jica.go.jp
その他、詳細はJICA関西ホームページをチェック!→<http://www.jica.go.jp/kansai/>

日本赤十字社 兵庫県支部

赤十字の講習のご案内 ~「もしも」に備える~

急病や不慮の事故からご自分の身を守り、大切な人のいのちを救うための正しい基礎知識と技術自身につけてみませんか?

日本赤十字社では、万一の病気やけが、災害などに備え、人命を救う方法や健康で安全に暮らすための知識や技術を伝えるための講習を行っています。



- 講習内容・日程
- ◆救急法基礎講習=9月26日(土)/10月24日(土)
- ◆救急法救急員養成講習(2日間受講)=9月12日(土)・13日(日)
- ◆救急法基礎・救急員養成講習(3日間受講)
=9月19日(土)・20日(日)・21日(月・祝)/10月10日(土)・11日(日)・12日(月・祝)
- ◆幼児安全法(3日間受講)=9月3日(木)・10日(木)・17日(木)
- ◆健康生活支援講習(6日間受講)
=10月6日(火)・13日(火)・20日(火)・27日(火)・11月4日(水)・10日(火)
- ◆科目別講習(講習の一部のテーマを短時間で習得できます)
- ・幼児安全法講習「乳幼児の災害時支援」=10月4日(日)
- ・健康生活支援講習「災害時高齢者生活支援講習(災害が起こった時、支援できること)」=10月4日(日)
- ・救急法講習「骨折の手当てと搬送法」=10月17日(土)
- ・救急法講習「AEDを使用した一次救命処置」=10月17日(土)
- ※そのほかにも講習があります。詳しくはHPをご覧ください

活動資金にご協力をお願いします

いのちと健康を守る赤十字活動は、皆さまから寄せいただく活動資金で成り立っています。

◎お問い合わせ

TEL 078-241-1499

赤十字 兵庫

検索

兵庫県こころのケアセンター

平成27年度

第1期「こころのケア」研修の受講生募集

兵庫県こころのケアセンターでは、「こころのケア」に携わる保健・医療・福祉・教育等の分野で活動されている方を対象に、各種課題への対処法等について学ぶ「専門研修」を実施しています。

9月から11月にかけて実施する研修の受講生を次のとおり募集しています。ぜひご参加ください。

▶研修概要

区分	コース名	期 間	定員	対 象	受講料 (資料代等)
専門 研修	①悲嘆の理解と遺族への支援	9/16(水) 17(木) (2日間)	35人	医療・保健・福祉・心理臨床の分野で活動する者および遺族支援に携わる者	3,500円
	②DV被害者のこころのケア	9/25(金)	35人	母子自立支援員、女性相談員(婦人相談員)、婦人保護施設職員、母子生活支援施設職員、家庭問題相談員、保健師、福祉事務所職員、こども家庭センター(児童相談所)職員等DV被害者相談支援関係職員	2,500円
	③消防職員のための職域のメンタルヘルス	9/30(水)	30人	消防職員	2,700円
	④被災者や被害者をささえるためにーサイコロジカルファーストエイドを学ぶー	10/7(水) 8(木) (2日間)	25人	学校・社会福祉協議会・保健師・病院等の精神保健福祉関係者	4,000円
	⑤犯罪被害とこころのケア	10/13(火) 14(水) (2日間)	25人	保健・医療・福祉・教育・司法・警察・消防関係職員	4,000円
	⑥被害者や被災者の中長期の回復を支えるこころのケアーサイコロジカル・リカバリースキル(SPR)ー	11/5(木) 6(金) (2日間)	35人	医師・臨床心理士・看護師・保健師・精神保健福祉士・その他関連領域の関係者	3,500円

▶場所=兵庫県こころのケアセンター

▶申し込み方法=受講申込書(※)に必要事項を記入の上、郵送・FAX・Eメールで下記照会先までお送りください。申込者多数の場合は、各研修開始日の1カ月前(前月の同じ日)の17時を期限として、初めて受講の方を優先の上、抽選で受講者を決定します。

※当センターホームページからダウンロードできます

●申し込み・問い合わせ

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
兵庫県こころのケアセンター 研修情報課
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2

(阪神「春日野道」駅から南へ徒歩約8分)

TEL 078-200-3010 FAX 078-200-3017

Eメール kensyu@j-hits.org http://www.j-hits.org/

学術交流センター

第5回自治体災害対策全国会議の案内

大災害は、その都度異なる形で襲ってきます。これに対応するため、全国の自治体職員が、大災害被災自治体の復旧・復興への取組を共有しつつ、今後予想されるさまざまな災害への備えについて考える「自治体災害対策全国会議」を平成23年度から毎年開催しています。今年度は、高知県内において、土砂災害と南海トラフ地震・津波対策をテーマとして開催します。

▶日時=9月15日(火)13時~18時

9月16日(水)8時30分~16時

▶場所=1日目:城西館(高知市上町2-5-34)

2日目:高知県黒潮町

▶プログラム

1日目:シンポジウム(総合司会:室崎益輝(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構副理事長)

○基調報告:「南海トラフ地震対策を含めた高知県の国土強靱化対策」尾崎正直(高知県知事)

○基調講演:「土砂災害と自治体がおかれている現状」池谷浩(砂防・地すべり技術センター研究顧問)

○特別報告:「平成26年広島豪雨災害を踏まえた土砂災害時の避難対策の現状と課題」兵谷芳康(内閣府大臣官房審議官(防災担当))

○分科会

・第1分科会「土砂災害における警戒避難体制の構築」

座長:笹原克夫(高知大学農学部教授)

報告者:「タイムライン試行から見えてきたこれからの防災行動」(三重県紀宝町)「平成26年丹波豪雨時の対応と教訓」(兵庫県丹波市)

・第2分科会「南海トラフ地震対策と事前復興計画」

座長:木村玲欧(兵庫県立大学環境人間学部准教授)

報告者:「関西初の津波防災地域づくり推進計画に基づくまちづくり」(和歌山県串本町)「住民主体の事前復興まちづくり計画」(徳島県美波町)

○分科会報告・全体総括

2日目:現地視察・意見交換

防災缶詰工場、津波避難タワーの視察、黒潮町の取組の紹介と意見交換
※プログラム内容は変更の可能性があります

▶募集人員=200人

▶参加対象=自治体職員(自治体職員OB、災害支援団体職員、大学関係者も参加可能)

▶参加費=無料(ただし、2日目の参加者は、昼食代1,000円を頂戴します)

▶参加等申し込み方法=下記のホームページから「自治体災害対策全国会議参加申込書」をダウンロードし、必要事項記載の上、自治体災害対策全国会議事務局へFAXでお申し込みください。

●申し込み・問い合わせ

学術交流センター交流推進課

TEL 078-262-5713 FAX 078-262-5122 Eメール gakujuitsu@dri.ne.jp

http://www.hemri21.jp/dcp/index.html

あった、あった、ここや。
えらい大きい会社やなあ、ドキドキしてきたわ。

あかん、鎮まれ心臓
営業マンに弱気は禁物、最初が肝心や。

初めて出会った
人と人との
つながり。

それが、
わたしたちのしごとです。

「はじめまして。カワサキと申します」
名刺を交換したらお付き合いの始まり。
小さな紙片からどれだけ仕事広がるか、
さあ、ガンバルぞお〜!

「ひょうご講座2015」開催のご案内

当機構では、兵庫県内の大学や研究機関等と連携して、専門的な大学教養レベルの生涯学習講座「ひょうご講座2015」を9月から開催します。

数ある生涯学習の中でも、特に1つの科目・テーマを掘り下げて幅広い視点から考察するのが本講座の特徴です。時代の潮流を踏まえたテーマで6科目を実施します。

■概要等

- ▶ 時間 = 平日(火曜・木曜・金曜) 18時30分～20時
- ▶ 日数 = 10回(1回当たり90分講義。週1回、同一曜日に実施)
- ▶ 受講料 = 1万5,000円(1科目)
- ▶ 定員 = 各科目約40人
- ▶ 開講場所 = 兵庫県民会館(地下鉄「県庁前」駅下車すぐ)
- ▶ 開設科目

分野	科目名	日程
政治・経済	2010年代のグローバル政治・経済の混迷をめぐって	9/1(火)～11/17(火)
生命化学	健康をサイエンスする	9/8(火)～12/8(火)
心理	「絵本」や「ものがたり」を通して「魂」に触れる	9/3(木)～11/5(木)
国際理解	超大国への道を歩む中国の実態	9/3(木)～11/5(木)
考古	徹底研究「考古学」	9/4(金)～11/6(金)
天文	宇宙はどんな世界?	9/4(金)～11/6(金)

《注目の科目》

「健康をサイエンスする」

・「健康でありたい」「酒は百薬の長というけど本当?」「遺伝子で病気になるかどうか分かるの?」などとお考えのあなた。生命分子(DNAやタンパク質など)の基本的な構造や物性・機能から、最先端の研究成果(遺伝子診断やがん研究など)や食品・お酒の効用まで学び、健康サイエンスで未来生活がいかに改善されるかを考えます。

「『絵本』や『ものがたり』を通して『魂』に触れる」

・私たちは、「絵本」や「ものがたり」の中に、「魂」の本質に触れることが語られていると感じています。有名な「絵本」や「ものがたり」が世代を超えて語り継がれていくのは、私たちの「魂」に触れるものがあるからです。どのように私たちの「魂」について語っているのかを、臨床心理学の観点からお話します。

「宇宙はどんな世界?」

・夜空を見上げてみましょう。あなたが見ているあの星の周りには生命がいるのでしょうか。宇宙の果てはどのようになっているのでしょうか。宇宙を探る方法は実にさまざまです。顕微鏡や目では見えない「X線」、「電波」で宇宙を観測することもあります。この講義を受ければ、夜空の見方がきっと変わるでしょう。

■募集期間

各開講日の1週間前まで。ただし、先着順に受け付け、定員になり次第締め切ります。(WEB、FAX、郵送で受け付け)

●問い合わせ

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
学術交流センター 交流推進課
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2
TEL 078-262-5713 FAX 078-262-5122
http://www.hyogo-al.jp/kouza/



ひょうご講座

検索

兵庫自治学会のご案内

兵庫自治学会とは、県政および県内市町行政の振興と地域の発展のために、行政や地域に関するさまざまな課題について研究し、課題解決のための政策形成能力の向上と、組織や職種を超えた幅広いネットワークづくりを目指している団体です。自らの視野を広げるため、一歩踏み出してチャレンジしてみませんか?

■入会するとこんなメリットが!

- ①研究発表大会での発表・ディスカッションを通じて、興味のある行政・地域課題についての研究に取り組み、学識者のアドバイス・助言を受けることができます!
- ②グループでの研究やセミナー等を企画・実施しようとする人は、資金面等で援助が受けられます!研究に関しては指導・助言を行う学識者のあっせんも受けられます!
- ③日頃の研究成果を論文として投稿でき、審査を受けて学会誌に掲載されます!
- ④会報、メルマガ、ホームページ等を通じて、研究発表大会・セミナー・他の会員が主催するイベント等の情報を定期的に受け取ることができます!
- ⑤学会事業への参加を通じ、興味を同じくする地方自治体職員、NPO関係者、学識者、さらには米国の行政関係者らとの人的ネットワークを広げることができます!

■学会の主な事業

(1)研究発表大会(平成27年度大会概要)

▶日時=10月17日(土)10時45分～18時

▶場所=兵庫県立大学・神戸商科キャンパス(神戸市西区学園西町8-2-1)
大会テーマ:自立的で持続的な地域社会の創造について

▶内容=(午前)全体会(講演)

講師 山崎 亮氏

(studio-L代表、東北芸術工科大学教授、京都造形芸術大学教授、慶應義塾大学特別招聘教授)

(午後)分科会

会員等による研究発表および参加者との意見交換、交流会

※参加申し込みの受け付けは9月から開始します



前回の研究発表大会分科会の様子

(2)グループ研究応援事業

グループで行うさまざまな地域課題に関する研究活動に上限10万円までの助成を行っています。

(3)コラボレーション・プロジェクト

会員が自主的に企画・開催する地域課題・行政課題等に関するセミナー等に、上限10万円まで助成します。

(4)兵庫自治学会セミナー

行政・地域課題をテーマにしたセミナーを県内地域で開催します。

(5)論文の自主投稿(査読付)制度

会員からの自主投稿論文を募集しており、査読を受けた論文が掲載されます。

(6)全米公共・行政学会(ASPА)との交流

米国の行政実務家や学識者などで構成され、行政に関する学術の向上促進を目的とするASPАとの交流を行っています。

■会員になるには

年会費2,000円

兵庫県職員、県内市町職員、県内に在住または在勤の学識者・NPO職員・個人ならどなたでもご入会いただけます(会員数約700人)。

●問い合わせ

兵庫自治学会事務局

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構・学術交流センター内

TEL 078-262-5714 FAX 078-262-5122

Eメール gakujuitsu@dri.ne.jp http://hapsa.net/

平成27年度トライやる・ウィーク

6月2日から5日までの4日間、神戸市立有馬中学校の2年生2人が、トライやる・ウィークとして人と防災未来センターで実習を行いました。

シアターへの来館者の誘導、実験コーナーでの来館者の実験の手伝いや、資料室収蔵庫での作業に加え、閲覧室の図書展示作成等、さまざまな体験をしました。

※トライやる・ウィークとは
 中学生が職場体験、福祉体験、勤労生産活動など、地域でのさまざまな体験活動を通じて、働くことの意義、楽しさを実感したり、社会の一員としての自覚を高めるなど、生徒一人一人が自分の生き方を見つけられるよう支援する事業



来館者用の「防災ゲーム」のルールを学ぶ様子（閲覧室内）

第16回減災報道研究会の開催結果

人と防災未来センターは6月1日、「第16回減災報道研究会」をJICA関西ブリーフィングルームで開催し、報道関係者、行政関係者、研究者等約60人が参加しました。

自然災害から市民の命を守り、被害を軽減させるためには、災害対応を行う行政機関と被災地の内外に向けて情報を伝える報道機関の連携が重要であることから、人と防災未来センターでは同研究会を設置して、取材する側と取材される側が議論する場を提供しています。

今回は「行方不明者の氏名公表 どうあるべきか」をテーマに、講師に古越武彦氏（長野県危機管理部危機管理防災課危機管理係担当係長）と山崎栄一氏（関西大学社会安全学部教授）を迎え、「御嶽山噴火時の対応」や「法律面からみる行方不明者の氏名公表—安否情報と個人情報保護」の講義を受けて、参加者も加わり、災害時における個人情報保護と情報公開による公益性の関係について熱心に議論が行われました。



自治体職員も多く参加



講師との質疑応答の様子

平成27年度 1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」を実施

学校や地域において、防災学習に主体的に取り組む児童、生徒等の先進的な活動を顕彰する平成27年度1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」を兵庫県と毎日新聞社と共催で実施します。応募いただいた中から優秀な活動を選考し、平成28年1月に神戸市内で表彰式・発表会を開催します。



昨年の表彰式・発表会の様子

【対象部門】

①小学生 ②中学生 ③高校生 ④大学生
(その他:自主防災組織・NPO等からも各部門に応募可)

【対象活動】

自然災害から命と暮らしを守るための防災教育や防災活動の取り組み。応募は学校、クラス、サークル活動、ボランティア活動、地域などの単位で。
※他薦歓迎

【対象期間】

平成26年10月1日～28年3月31日
(活動予定も含む)

【応募締め切り】

平成27年9月30日(水)(消印有効)

【応募方法】

■下記のURLの申込フォームから申し込みいただくか、応募用紙をダウンロードの上、郵送してください。
<http://np0-sakura.net/bousai-koushien/>

【応募用紙の配布】

下記の機関で応募用紙を配布しています。

- ・兵庫県復興支援課
TEL 078-362-4424
- ・(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
人と防災未来センター
TEL 078-262-5068

【応募先】

〒663-8201
西宮市田代町16-8 パルティーレN棟西号室
ぼうさい甲子園事務局 (特非)さくらネット
TEL 0798-64-5829 FAX 0798-65-5254
Eメール bousai_koushien@yahoo.co.jp

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

観覧案内・予約 / TEL 078-262-5050 <http://www.dri.ne.jp/>

開館時間 9時30分～17時30分(入館は16時30分まで)
※7月～9月は9時30分～18時(入館は17時まで)
※金曜、土曜は9時30分～19時(入館は18時まで)

入館料金

大人	大学生	高校生	小・中学生
600円(480円)	450円(360円)	300円(240円)	無料

※()は20人以上の団体料金
※障害者、65歳以上の高齢者は上記の半額

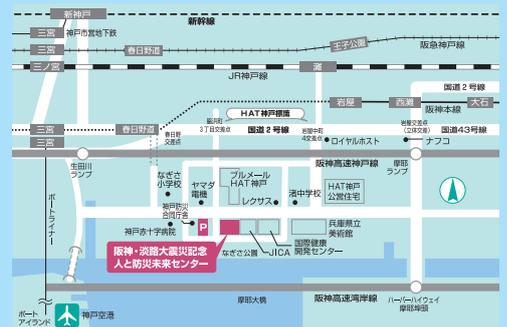
休館日

毎週月曜(月曜が祝日の場合は翌平日)、12月31日と1月1日
※ゴールデンウィーク期間中(4月29日から5月6日まで)は無休
※資料室の開室日についてはホームページでご確認ください

交通

- 鉄道**
- ・阪神電鉄「岩屋」駅、「春日野道」駅から徒歩約10分
 - ・JR「灘」駅南口から徒歩12分
 - ・阪急電鉄「王子公園」駅西口から徒歩約20分
- バス**
- ・三宮駅から約15分
- 車**
- ・阪神高速道路神戸線「生田川」ランプから約8分
 - ・阪神高速道路神戸線「摩耶」ランプから約4分
 - ・阪急・阪神・JR「三宮」駅から約10分

●有料駐車場あり ●バス待機所(予約制/無料)あり



平成27年度春期 災害対策専門研修マネジメントコースの実施結果

人と防災未来センターでは、地方自治体職員などを対象とした「災害対策専門研修」マネジメントコースを平成14年度から実施しています。当該コースは、災害対策実務の中核を担う人材の育成を目的とし、阪神・淡路大震災の教訓を学習することを重点としつつ、最新の研究成果も取り入れ、能力に応じた体系的、実践的なカリキュラムです。平成26年度末で2,248人の方々が受講され、全国の自治体等から高い評価を得ています。春期研修においては、ベーシック、エキスパートAおよびエキスパートBの3コースを実施しました。

ベーシックでは、経験年数の浅い防災・危機管理担当部局の職員を対象に、国の災害対応の動向について内閣府の四日市参事官に講義いただくほか、災害の発生に関する理論や阪神・淡路大震災の経験を踏まえた災害対策のあり方など、基礎的な事項についての体系的な講義やセンターの資料展示を活用した演習などを実施しました。復興まちあるきでは、今回初めての試みとして、スマホアプリを利用して震災時や復興期の様子と現在を比較しながら現地を視察しました。

エキスパートAおよびエキスパートBでは、防災・危機管理担当部局の職員を対象として、大規模災害発生時に各種の対応が同時並行的に展開される状況を横断的・総合的に捉え、これに対処する能力を向上させることを目的に研修を実施しました。目標管理型災害対応の考え方を身に付ける演習、災害対応時要援護者への対応をテーマとした講義などを行いました。

研修終了後のアンケートでは、「政府の危機管理体制についての知識が得られ、今後の業務の参考になった。また、災害と災害法体系について、過去の発災時の課題を踏まえた説明が非常に分かりやすかった」「被災者の視点で考えたのは初めての経験で、職場でも生かせそうだ。被災者の視点の後に市の対応を考える訓練はとても有効と思った」「情報と指示の流れを考慮した空間設計の重要性を理解することができた」など、意見が寄せられました。さらに、受講者間の交流を通じて防災担当者の全国的なネットワークが一層強まりました。



我が国における災害対応の動向(6月2日ベーシック)



復興まちあるき(6月3日ベーシック)



災害対応ワークショップ(6月12日エキスパートA)



災害対策本部の空間構成設計演習(6月19日エキスパートB)

コース名	日程	参加人数	修了者
ベーシック	6月2日(火)～5日(金)	79人	78人
エキスパートA	6月9日(火)～12日(金)	28人	28人
エキスパートB	6月16日(火)～19日(金)	28人	26人
合計(延べ)		135人	132人

※なお、秋期(10月)に、エキスパートA、エキスパートBおよびアドバンスト・防災監/危機管理監の3コースを予定しています。



Hem21 NEWS
vol.52

平成27年7月発行

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2(人と防災未来センター)
<http://www.hemri21.jp/>

当機構は、以下の組織で構成しています。

●管理部門
TEL 078-262-5580
FAX 078-262-5587

●研究調査本部
TEL 078-262-5570
FAX 078-262-5593

●人と防災未来センター
TEL 078-262-5050
FAX 078-262-5055

●学術交流センター
TEL 078-262-5713
FAX 078-262-5122

●こころのケアセンター
〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2
TEL 078-200-3010
FAX 078-200-3017

ニュースレターに関するご意見・ご感想を機構までお寄せください